

『ポリネコ!-CHIKUMA』は、スマートフォンやPCから、誰もが、地域課題について知り、学び、意思表示することで地域の課題解決を柔軟かつ迅速におこなえるようになる、新しいコミュニケーションの仕組みです。

テーマによっては課題に対する最適解を住民と議会と行政と一緒に考え、課題解決に向けた合意形成に上に施策(予算)を策定、運用することもできる自治体DX、Society5.0のコミュニケーションです。

エビデンスを踏まえた対話による
-地域課題の解決
-共通目標=ビジョンの構築、運用
が**とてもむずかしい**

誰がどのように
読んでいるか
よく判らない。



広報



- 知らない
判らない
関係ない
- ・月1回
年間12回+臨時発行
22300部 発行
(世帯数分)
- ・効果検証ほぼなし

基本的構造として**分離**

優等生な回答が
多い、本当に
これが実態?
・
対話に
なっている?



公聴



回答しても
どうせ、、

- ・一般的な意識調査は
無作為抽出の上、
回答依頼
- ・子ども、子育てに
特化した調査が難しい
- ・限られた機会、設問
回答者は毎回リセット
(成長しない母集団)

18歳以下の小中高生
に対応できない
(こども基本法)

エビデンスを踏まえた対話による
-地域課題の解決
-共通目標=ビジョンの構築、運用
が**できる**

メール登録者をさまざまな機会を増やす
(窓口、広報、母子手帳配布時、調査、イベント等)

「報せる」
「聴く」
を同時に
行える!
住民を確実に
サポート
できる!



基本的構造として**一体**



知ってる!
判る、学べる
関わっている



- ・人口減少、流出への対応
- ・地域の持続性確立
- ・総合計画、振興計画などの
具体化
- ・次世代層の地域参加

- ・回答参加者を増やして行ける
(成長する母集団)
- ・繰り返し回答によって、
回答の積み重ね、対話ができる

- ・データやファクトを学習した上
での意思表示が行える (輿論)

- ・議員参加 (選択式) によって
条例の改正や宣言の更新を迅速
かつ柔軟に行えるようになる

- ・こども基本法、GIGAスクールに対応

状況の再認識と
現実に対応した
市民参画、運用を
『ポリネコ!』で対応可能